

# 1. 評価結果概要表

作成日

平成 19 年 7 月 13 日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4071001178		
法人名	有限会社 光		
事業所名	グループホーム南薬院		
所在地	福岡市中央区警固3丁目2番28 〒810-0023 (電話) 092-752-5085		
評価機関名	社会福祉法人 福岡市社会福祉協議会		
所在地	福岡市中央区荒戸3-3-39		
訪問調査日	平成19年7月13日	評価確定日	

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

介護保険施設での処遇に疑問を抱いた管理者が、「自由に生き生きと楽しく暮らせる家庭」を理念に掲げて、開設したホームである。入居者は元々の生活圏内に住んでいた方々が殆どであり、散歩の際に近隣の方からお花をいただいたり、食事会に誘われたり、地域の方々と共に行事に取り組むなど地域との交流が自然な形でされており、入居者が地域に溶け込んで暮らしている。「自由で生き生きと暮らせる家庭」という理念のとおり、歌舞伎見学や植物園に出かけたり、入居者がひとりで買い物に出かけるなど、ふつうの暮らしが営まれている。ホームとしての流れはあるものの、入居者のペースを尊重するなど、入居者の尊厳を支える支援が行われている。入居者の笑顔からも安らかに安心して生活していることがうかがえる。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目	<b>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</b> 前回の評価を受け、家族及び運営推進会議時に報告を行い、職員へはミーティング時に内容を周知して改善への協議を行うなど、質の向上への取組みがある。この過程で地域包括支援センターとの連携を図るなどの成果が見られる。
	<b>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</b> 管理者、事務長が中心となり、ミーティング時に改善内容などについて協議を行うなど職員を交えた取組みがあった。
重点項目	<b>運営推進協議会の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</b> 自治会長、民生委員、家族、入居者等の出席による運営推進会議の2ヵ月毎の開催がある。家族介護教室の開催やパンフレット配布等の提案を受けたり、地域行事への参加を通して地域の方との相互交流が活発となるなどの成果がみられる。ただし、運営推進会議への行政職員の参加はなく、常にホーム側から情報を発信する方策として運営推進会議録の提出など、現在の既存の取組みを継続してほしい。
重点項目	<b>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)</b> 家族の訪問時の声かけや家族会、毎月発行している「たより」を通じて入居者の状況や暮らしぶりを伝える取組みはあるが、家族からの本音の意見は出難い状況である。今後無記名方式でのアンケートの実施など、家族の意見や意向を汲み取るような働きかけを期待したい。
重点項目	<b>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</b> ホーム行事としてバーベキュー大会を開催し、近隣の人に来てもらったり、地域行事の食事会などへの参加、日常の散歩や買物の際の声かけなど、地域交流への取組みがある。近隣の方からお花をいただくなど地域の方との日常生活を通じたつきあいが営まれている。

## 【情報提供票より】(平成 19 年 4 月 1 日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 16 年 5 月 1 日						
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人				
職員数	9 人	常勤	7 人	非常勤	2 人	常勤換算	8.4 人

### (2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	2 階建ての～ 1.2 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有( 300,000 円)	無		
保証金の有無(一時金を含む)	有( 円)	有の場合償還の有無	有 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日あたり		1,400 円程度	

### (4) 利用者の概要(4月1日現在)

登録人数	9 名	男性	名	女性	9 名
要介護 1	2 名	要介護 2			5 名
要介護 3	2 名	要介護 4			名
要介護 5	名				
要支援 1	名	要支援 2			名
年齢	平均 81 歳	最低	73 歳	最高	89 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	岡部、浦クリニック/三宅内科クリニック/黒岩クリニック
---------	-----------------------------

## 2 . 調 査 報 告 ( 詳 細 )

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1 理念の共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続ける ことを支えていくサービスとして、事業 所独自の理念をつくりあげている	入居者自身が、自分らしく自由に生き生きと楽 しく暮らせる家庭を提供することを理念として掲 げており、地域のなかでその人らしく生活するこ とを支える取組みがある。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の 実践に向けて日々取り組んでいる	入職時のオリエンテーションをはじめ、月1回の ミーティング時に理念の唱和、管理者からの話、 提案があり、職員で協議するなど、理念の実践に 向けての取組みがある。		
2 地域との支え合い					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員と して、自治会、老人会、行事等、地域活 動に参加し、地元の人々と交流するこ とに努めている	ホームでバーベキュー大会を開催し、近隣の 人々に来てもらったり、地域の行事の食事会、神 社の掃除などへの参加、日常の散歩や買物の際の 声かけなど、地域との交流がある。		
3 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及 び外部評価を実施する意義を理解し、評 価を活かして具体的な改善に取り組んで いる	前回の評価結果について家族会や運営推進会議 時に報告を行い、職員へはミーティング時に内容 の周知、提案事項について協議し、質の向上への 取組みがある。この過程で地域包括支援センター との連携を図るなどの成果が見られる。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会長、民生委員、家族、入居者等の参加による2ヵ月毎の運営推進会議の開催がある。地域における家族介護教室の開催の実施やパンフレット配布などの提案を受けたり、地域行事へ参加するなどの成果が見られる。行政との連携は、今後の課題である。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政担当職員と常に相談するなど、連携を図っている。運営推進会議への行政担当職員や地域包括支援センター職員の参加はなく、行政担当職員などへホームから継続的に参加要請を働きかけてほしい。		
7 追加	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域権利擁護事業や成年後見制度を利用している入居者がおり、必要に応じて説明を行っているが、すべての家族への説明までには至っていない。職員の研修や勉強会等を活用した理解への浸透は、これからである。	○	全職員が地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について理解を深めることができるように、勉強会等へ取組んでほしい。また、家族や運営推進会議時に繰返しの説明を行い、制度の正しい理解と周知に努め、必要な時に確実に利用できるように支援してほしい。
4 理念を実践するための体制					
8 (7)	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	年1回の家族会や面会時の説明、必要時の電話連絡などを通じて入居者の状況やホームに関することについて説明している。毎月、入居者一人ひとりに応じたホーム便りの発行を通じてイベントや入居者の暮らしぶりを伝えるなど、様々な内容を知らせる取組みがある。		
9 (8)	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会の開催時や面会時の声かけ、その都度の電話連絡の際に家族からの意見や要望などの聴取は行われているが、家族からの本音の意見は出難い状況である。	○	無記名方式でのアンケート実施を行うなど家族の意見を新たに汲み取る方法を検討し、家族会や面会時に何でも言ってもらえるような雰囲気づくりに努めてほしい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
10 (9)	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ホームに適した人材を採用して離職を防ぐ取り組みをしている。職員が離職するときは引継ぎを十分行い、入居者の混乱のないように対応している。入職時は2～3回の見学を通じて自然に馴染みの関係性を維持する取り組みがある。		
5 人材の育成と支援					
11	19 追加	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用に関して年齢や性別などによる制限は行われていない。習字の段位を所有している職員には、レクレーション時に習字の指導をしてもらったり、農業系の高校を卒業した職員には、菜園の管理をしてもらうなど、特技や前職の経験などを活用しての取り組みがある。		
12	20 追加	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	年1～2回人権に関する研修への参加や報告会などを通じて職員への人権教育への取り組みが見られる。		
13 (10)	21 (19)	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	交代で外部研修に参加できる機会が確保され、外部研修への参加やミーティング内での報告会が実施されているが、定期的・計画的に研修を行っていくことは、これからの課題である。	○	職員一人ひとりの知識・技術を高めることで、ホームとして更にステップアップしていくためにも、研修をより計画的に行い、他事業所との連携や情報交換等、更なる質の向上に向けた取り組みを期待したい。
14 (11)	22 (20)	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会を通して他のグループホームとの交流、情報交換や他のグループホームへの見学体験を行うなど、サービスの質の向上に向けた取り組みがある。		



外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15 (12)	28 (26)	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前にホームに来ていただき、体験入所を通じて馴染みの関係作りへの取り組みがある。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16 (13)	29 (27)	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理の下ごしらえや配膳の仕方、職員の浴衣を作り、着付けてもらうなど、日常の関わりの中で自然と学び支えあう関係づくりへの取り組みがある。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1 一人ひとりの把握					
17 (14)	35 (33)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常的なかかわりを通じて入居者の希望や意向などの把握に努め、介護サービス計画書中の生活課題に記録されている。介護サービス計画書中の利用者及び家族の意向についての内容は、入居時のままの状況であり、介護サービス計画書内容の充実は、これからの課題である。	○	日常の関わりの中で入居者の言葉や表情、行動などから思いを察知し、家族の意見や希望の表出に努め、介護計画書に反映させるよう努めてほしい。
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18 (15)	38 (36)	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日常の関わりの中で担当職員がアセスメントを行い、介護支援専門員で原案を作成し、ミーティング時に職員、管理者、介護支援専門員で協議し、十分に検討しながら入居者本位の介護計画の作成に努める取り組みがある。	○	ケアのための計画の側面にとどまらず、入居者の意向・希望などを充分把握し、介護計画書に反映させて、入居者本位の視点に立った介護計画書となるよう努めてほしい。


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19 (16)	39 (37)	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとの担当者会議においての見直し、月1回のミーティング時におけるプラン内容について検討を行い、必要に応じて介護計画の修正・再作成が行われている。		
3 多機能性を活かした柔軟な支援					
20 (17)	41 (39)	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ホームのかかりつけ医と入居者かかりつけ医との連携、入居者・家族の希望にあわせて以前からのかかりつけ医への受診への対応、個人的な外出支援など、その時々々の要望に沿えるよう柔軟に対応している。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21 (18)	45 (43)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医への受診希望に対しては、家族対応にてお願いしており、家族対応が無理な場合は、職員にて受診対応を行っている。ホームかかりつけ医があり、必要に応じて診察が受けられるなど、適切な医療を受けられるように支援している。		
22 (19)	49 (47)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居者の状態が悪化したとき、家族と面談し、話し合いが行なわれている。終末期のあり方について早い段階での本人及び家族、主治医、職員、管理者などを交えての協議や共有した支援体制等これからの課題である。	○	重度化した場合の本人、家族の希望の確認から始めるなど、できるだけ早い段階での働きかけを行い、今後予想される状態変化に応じた話し合いや本人、家族の希望に沿っての支援体制作りに努めてほしい。

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1 その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23 (20)	52 (50)	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損 ねるような言葉かけや対応、記録等の個 人情報の取り扱いをしていない	入居者の視線に合わせての会話やゆっくりした 声かけ、入居者へ丁寧に謝意を表すなどの、入居 者を尊重した対応が見受けられた。管理者はミー ティングや日常時の関わりの中で常々話し、周知 を行い、必要時には個別指導を行っている。		
24 (21)	54 (52)	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するの ではなく、一人ひとりのペースを大切に し、その日をどのように過ごしたいか、 希望にそって支援している	日中の過ごし方、入浴や食事のペース、食後の 過ごし方など、日常生活の細かい所に入居者一人 ひとりを尊重し、入居者のペース・希望を優先し た対応が見られた。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25 (22)	56 (54)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人 ひとりの好みや力を活かしながら、利用 者と職員と一緒に準備や食事、片付けを している	メニューは、入居者の希望を聞きながら作成さ れている。食事の準備や配膳・下善などを入居者 と職員と一緒にいき、同じ食卓で楽しく食事がで きるような雰囲気作りが、見受けられた。		
26 (23)	59 (57)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてし まわずに、一人ひとりの希望やタイミン グに合わせて、入浴を楽しめるように支 援している	毎日の入浴が可能であり、入浴するタイミン グや時間など入居者の希望に沿った支援がある。ま た、夕食後の19時過ぎから就寝前までの入浴も 可能である。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27 (24)	61 (59)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせる ように、一人ひとりの生活歴や力を活か した役割、楽しみごと、気晴らしの支援 をしている	書道をしてもらったり、浴衣を作って着付けを してもらったり、入居者のできることや楽しみご とを引き出した生活ができる支援がある。		
28 (25)	63 (61)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひ とりのその日の希望にそって、戸外に出 かけられるよう支援している	日常の散歩や買物、入居者の希望によるその都 度の外出やGPSを持っての入居者一人での外出な ど、積極的にかける取組みがある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29 (26)	68 (66)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中 玄関に鍵をかけることの弊害を理解して おり、鍵をかけないケアに取り組んでい る	日中は常に鍵は開錠されており、入居者の様子 を良く観察した上で、声かけして一緒に出かけた り、家族と話し合いの上でGPSを持ってもらって の一人での外出などの、安全面への対応がある。		
30 (27)	73 (71)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜 を問わず利用者が避難できる方法を身に つけ、日ごろより地域の人々の協力を得 られるよう働きかけている	年1回消防署と入居者がかかわった避難訓練を 実施し、日々の地域との交流を通じ、協力を得ら れる働きかけが見られる。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31 (28)	79 (77)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日 を通じて確保できるよう、一人ひとりの 状態や力、習慣に応じた支援をしてい る	毎食の食事摂取量を把握し、水分摂取への声か けや水分チェックの必要な入居者へは、水分摂取 量の把握や確保に努めている。		



外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32 (29)	83 (81)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台 所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者 にとって不快な音や光がないように配慮 し、生活感や季節感を採り入れて、居心 地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには自然採光を取入れ、季節の花が飾 られており、リビングとウッドデッキが続き、庭 をながめたり、季節感を感じることができる。リ ビングからは食事の用意の音が聞こえ、匂いを感じ ることができ、生活感を味わうことができ、居 心地良く過ごせる工夫がある。		
33 (30)	85 (83)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や 家族と相談しながら、使い慣れたものや 好みのものを活かして、本人が居心地よ く過ごせるような工夫をしている	入居者個々の居室には、絵や写真などの思い出 の品、タンスや衣装ケースなどの使い慣れた家具 などが持ち込まれるなど、入居者に居心地の良い 居室作りへの工夫と配慮がなされていた。		

 は、重点項目。  
(数字)は、国の標準例による番号